

2025 年度埼玉親善大使レポート

佐久間淳熙 香港大学

私は 2024 年 9 月から香港大学に留学しており、現在 4 年ある理学士数学科課程の折り返し地点にいます。本レポートでは留学先である香港の紹介、自身の留学活動と埼玉親善大使の活動について述べます。

1. 香港について

香港はかつてイギリス統治下にあった歴史から「一国二制度」のもとで西洋の制度と東洋の伝統が融合した極めてエネルギッシュな都市です。超高層ビルがひしめく世界有数の都市部の中で、トップクラスの交通網や賑やかな外食文化が日々の暮らしを支えています。香港の人々は日本、そして日本文化との関係が非常に良好です。例えば、ドンキホーテでは輸入品のため現地スーパーより高価格であるにもかかわらず、日本製品の品質に対する圧倒的な信頼から絶大な人気を誇り、連日多くの人で賑わっています。さらにスシローでは、夕方 5 時を過ぎると 2 時間待ちになるほどの行列ができることが毎日で、予約しようとも 2 ヶ月先まで埋められています。日本ではなかなか見られないこの熱狂ぶりは、現地ならではの貴重で興味深い体験でした。

私が留学を通じ抱いた香港人の印象は「効率とスピードを重視する合理主義」です。香港の極めて高い人口と狭い土地所以の高家賃は、ビジネスに「極限の回転率とスピード」を生存戦略として強いました。さらに、低税率と引き換えの手薄い社会保障の競争社会ゆえに、「立ち止まれば即脱落する」という危機感が人々の徹底した合理主義を形作ったのです。地下鉄のエスカレーター速度、青信号の点滅音、人々の歩行スピードが

日本よりかなり速く、街全体が常に急いでいるような躍動感があります。このように多忙でスピーディーな都市生活の一方で、都心部を少し離れれば豊かな大自然が広がっているのも香港の大きな魅力です。私も大学で知り合った仲間と一緒に、息抜きとしてサイクリングや登山へ出かけ、街の喧騒を忘れて爽快な風を感じる時間を楽しみました。



2. 自身の留学活動について

私が香港大学にて数学を専攻する目的は、AI のアルゴリズムを数理的に理解し、社会の複雑な課題を AI で解決するためです。大学生活の前半は多変数微積分学や線形代数等の基盤を固め、来年は機械学習や情報理論といった AI の核心に迫ります。研究面では、確率論の教授のもとで「ランダム行列理論 (RMT)」の研究アシスタントに従事します。RMT はランダムな要素を持つ行列を用いて高次元データを解析する手法であり、現代 AI の挙動を解明する強力な枠組みとなっています。この理論を深めることで、既存モデルを数理的に最適化する能力を磨きたいです。

学業の傍ら、私はイベント管理部の副会長として 34 名からなる多国籍チームを率いました。会長と役割を分担し、企画立案や大学事務部への申請、資金調達、当日のロジスティクスや返金対応に至るまで、運営全般を指揮しました。年間 14 のイベントを主催し、総動員数 3,000 人、総支出額 2,000 万円という重責を果たしました。中でも印象深

いのは、香港大学の伝統行事「High Table Dinner」です。これは寮生 400 名に加え、教授や著名な起業家を招くフォーマルな会食イベントです。著名なゲストと学生が深く交流できる貴重な機会を守るため、事前の広報や MC スクリプトの推敲、当日のゲストサポートまで細部に行き届いた運営を徹底しました。国籍も価値観も異なるチームで大きな成果を上げた経験は、私の組織マネジメント能力の大きな糧となっています。



このように香港大学は課外活動も非常に盛んですが、私がこれほどの重責を担ってまで副会長を務め上げた背景には、香港の過酷な住宅事情がありました。民間の家賃が月 20 万円ほどする中、月 5 万円で住める学生寮は非常に魅力的です。しかし入寮できるのは「大学に大きく貢献した学生のみ」という厳しい基準がありました。限られたリソースを貢献度に応じて分配する姿勢にも、香港らしい徹底した合理主義が現れています。私自身、その入寮権という「生存戦略」のために必死に成果を追い求めました。残酷的には聞こえますが、イベント管理部での日々は非常に楽しかったですし、学校では教わらないリーダーシップ能力やコミュニケーション能力も磨けました。

3. 埼玉親善大使の活動について

私は埼玉親善大使として最初に香港大学で知り合った友人を招き、埼玉ツアーを実施しました。小江戸の情緒あふれる川越や、豊かな自然が広がる長瀬を巡り、歴史ある日本文化と美しい景観など埼玉ならではの魅力を体感してもらいました。しかし、個人での

発信には限界があると感じた私は、より持続的な影響を生むための仕組みづくりに動き出しました。親日家である寮の創業者やイベント管理部に働きかけ、香港大学と埼玉の教育機関による「交換留学プログラム」の立ち上げを提案したのです。この企画は、香港の学生が埼玉を訪れて地元の学生と異文化交流を行うとともに、共同で埼玉県内を巡るツアーを実施するというものです。個人での活動にとどまらず、大学や組織の巻き込みを通じて、双方の学生にとって価値ある交流の場を創出することが期待されます。